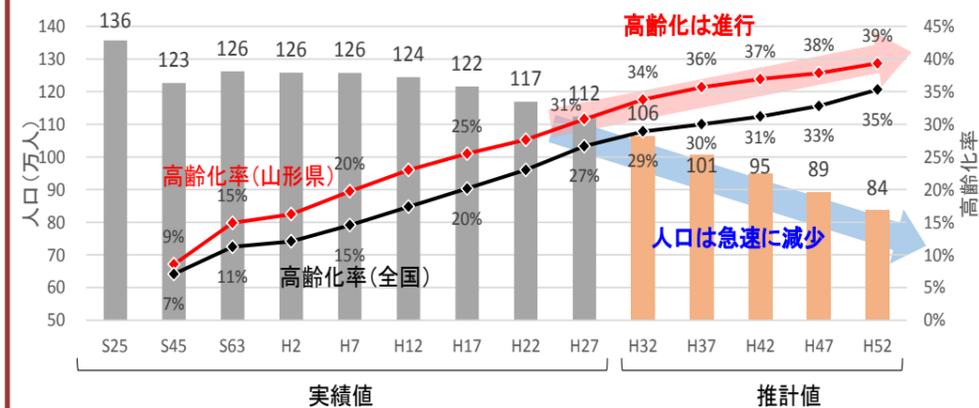


道路を取巻く現状・社会的な背景

① 少子高齢化を伴う人口減少が加速

- 山形県の人口は今後も加速度的に減少
- 「超高齢社会※」のなか、高齢化はさらに進行

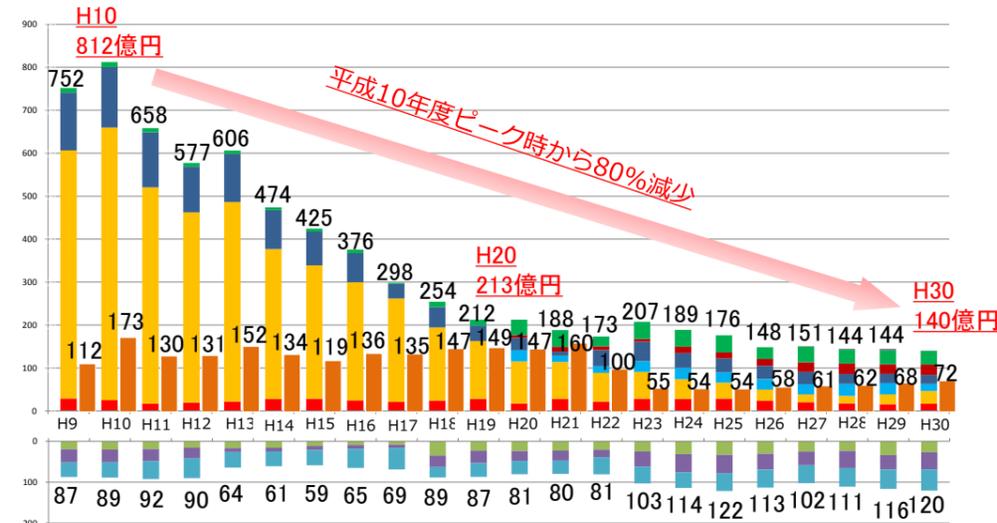
※ WHO(世界保健機構)の定義で、65歳以上の高齢化率21%以上の状態をいう。
 なお、「高齢化社会」は7%以上、「高齢社会」は14%以上。



【出典】2010年まで 総務省「国勢調査」
 2015年以降 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

② 社会保障関係費の増によるインフラ投資が圧縮

- 山形県の道路関係予算は平成10年度をピークに約8割の減少
- 事業費の減少に伴う事業の長期化



▲【出典】全国高速道路建設協議会 HIGHWAY NETWORK Ver13

③ 整備途上の高速・高規格道路

- 高速道路の整備推進により供用率が約7割を超える見込みのなか、地域間交流や経済活動の活性化のため、利活用策の充実が必要
- 供用されていない残りの約3割強は事業中または未着手であり、早期のネットワーク構築が求められる

高速道路整備の進捗状況	全国		東北ブロック		山形県	
	延長(km)	比率(%)	延長(km)	比率(%)	延長(km)	比率(%)
H31年3月末見込み						
予定路線延長	11,520	100	1,894	100	341	100
基本計画延長	10,623	92	1,793	95	287	84
整備計画延長	9,428	82	1,439	76	243	71
供用延長	10,077	87	1,752	93	259	76

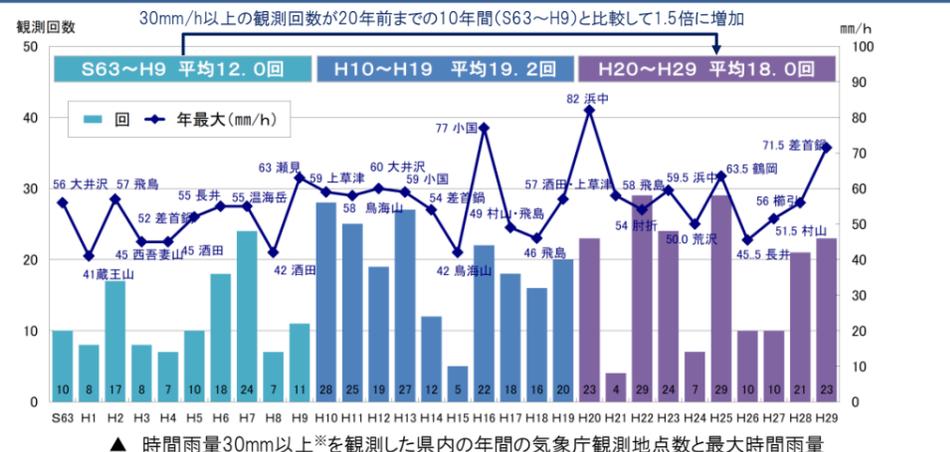
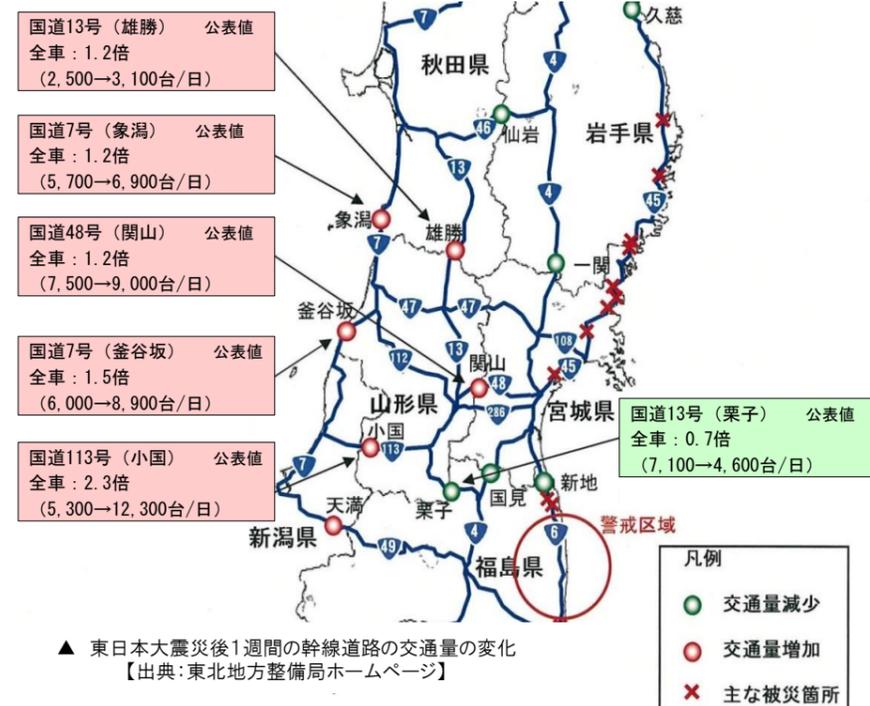
④ 公共事業を巡る社会情勢の変化

- 建設業者数、建設業就業者数の減少により、建設業界全体の高齢化と技術継承への懸念

この10年間で見てきた具体的な課題・新たな動き

① 東日本大震災・熊本地震・豪雨・豪雪など多発する自然災害から浮かび上がった課題

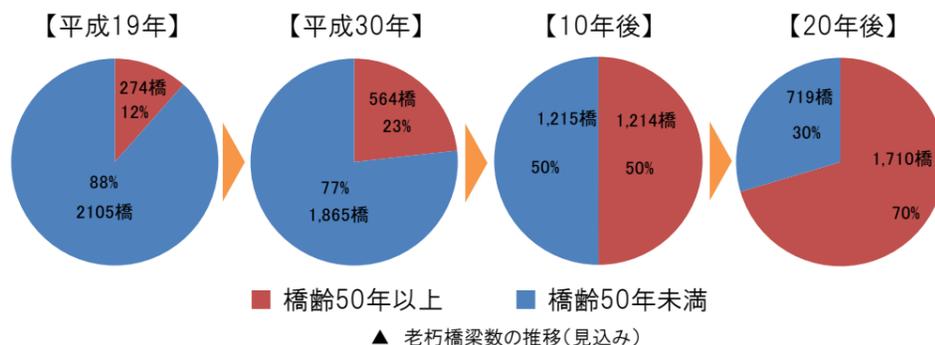
- 非常時にも機能する道路網の形成 (リダンダンシーの確保)
- 緊急輸送道路等における地震、津波、風水害、雪害対策
- 災害発生時の情報収集・提供のあり方
- 「道の駅」の防災機能向上への期待
- 重要物流道路制度の創設 (改正道路法 平成30年9月施行)
 (指定路線の平常時・災害時を問わない人流・物流の確保)



▲ 時間雨量30mm以上※を観測した県内の年間の気象庁観測地点数と最大時間雨量
 ※北村山、庄内南部、最上の大雨注意報発令基準が30mm/h以上であるため、これを参考に基準設定して検証
 (参考) 東南村山・西村山・庄内北部は40mm/h以上、東南置賜・西置賜は35mm/h以上、それぞれ他に3時間降水量の基準あり

② 道路施設の老朽化が進行

- 高度経済成長期に整備された道路施設の老朽化が進行 (橋梁・トンネル等)
- 施設の長寿命化対策に費用を要するが予算は頭打ち
- 老朽化施設の診断・対策に必要な人材の確保



③ 交通安全事業のニーズが上昇

- 全国で登下校中の児童・生徒の列に自動車が入る事故が頻発
- 高齢ドライバーによる重大事故が頻発、運転免許証の自主返納等の増加に伴う高齢者の移動手段の確保が必要
- 通学路等における歩道整備等交通安全事業の重要性を再認識

④ 新たな時代のニーズへの対応

- 重要物流道路制度の創設 【再掲】
 (指定路線の対策完了後、特殊車両通行許可の簡素化による輸送業の生産性向上、国際競争力強化)
- インバウンドを含む観光ニーズへの対応
 (酒田港外航クルーズ船就航、国際チャーター便の増便、東北新幹線の全線開通・仙台空港民営化に伴う東北全体の観光需要の増大など)



▲ 県内観光客数、外国人観光客数の推移
 【出典】山形県観光客数調査、外国人旅行者受入実績調査

- 安全に自転車を利用できる環境整備 (自転車活用推進法の施行 平成29年5月)
- ICT(情報通信技術)、自動運転システム等の技術開発・社会実装

過去10年間のみちづくりの主な取り組みと今後の課題

○ 主な取り組み ■ 今後の課題

やまがたの「みち」の将来像

山形県道路中期計画2028 ～ 副題・テーマ検討中 ～

(活力創造・広域交流促進)

みちづくりの3本柱と9つの施策

1 県内産業や観光の振興を支える社会基盤となるみちづくり

- ① 県土の基盤となる広域道路ネットワークの整備促進・機能強化と未事業化区間の早期着手
- ② 広域道路ネットワークを活かす追加IC(スマートIC含む)及びICや拠点へのアクセス道路の整備推進
- ③ 高速道路から県内各地へのゲートウェイとなる「道の駅」等への支援

(安全・安心・防災・保全・協働)

2 災害を未然に防止し安全・安心に利用できるみちづくり

- ④ 防災・減災に向けた県管理道路の機能強化と災害発生時の対応の迅速化
- ⑤ 人にやさしく安全・安心な道路整備に向けた多様な取り組みの推進
- ⑥ 予防保全型維持管理などによる計画的な道路施設の長寿命化と効率的な道路維持管理の推進

(地域活性化・快適・効率化)

3 既存ストックを有効活用し快適な暮らしと地域の活力を生み出すみちづくり

- ⑦ 生活圏間・都市間ネットワーク及び生活幹線道路の整備推進
- ⑧ 街なかに賑わいを創出するみちづくりの推進
- ⑨ 山形県の特性を活かした道路ストック(施設)をかしく使うみちづくりの推進

県民の望むみちづくりのあり方

《県政アンケート》

県民・市町村のニーズ

- 優先的に進めてほしい道路施策
 - 1位 地域間を結ぶ道路
 - 2位 市街地と周辺地域を結ぶ道路
 - 3位 市街地の道路
 - 4位 高速道路
- みちづくりで重視すること
 - 1位 誰もが利用しやすいユニバーサルデザイン
 - 2位 落石・雪崩等の防災対策
 - 3位 非常時に備えた安全対策

《市町村アンケート》

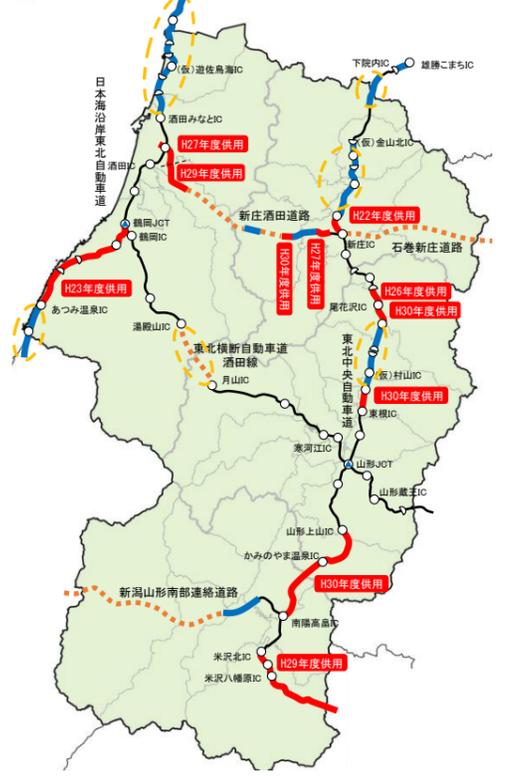
- 前道路中期計画の各施策で重要と思うもの
 - 1位 高速道路・地域高規格道路の整備
 - 2位 橋梁・トンネルの長寿命化
 - 3位 通学路等の整備

「山形のみちづくり評議会」、「道路利用者」等からの各施策に対する意見

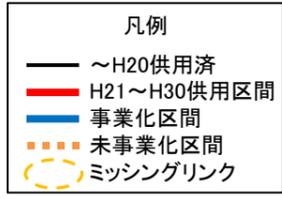
評価・検証

① 高速道路・地域高規格道路の整備状況

- 高速道路・地域高規格道路の整備が大きく前進【概ね目標達成】
 - ・ 東北中央自動車道 供用率 H21:38% ⇒ H30末:78%(見込み)
 - ・ 日本海沿岸東北自動車道 供用率 H21:0% ⇒ H30末:49%
山形自動車道の重用区間(鶴岡JCT～酒田みなとIC)を考慮すると
供用率 H21:34% ⇒ H30末:67%
 - ・ 新庄酒田道路 供用率 H21:8% ⇒ H30末:43%
 - ・ 新潟山形南部連絡道路 供用率 14%(増減なし 梨郷道路事業推進)
 - ・ IC30分圏域の人口率 H21:70% ⇒ H30末:88%(見込み)
- 供用率は未だ全国平均を大きく下回り、多くのミッシングリンクが残ることから、産業振興、観光振興、災害時のリダンダンシー機能の確保のため、引き続き整備を促進し、ミッシングリンクの早期解消を図る必要がある。



※東北中央自動車道・日本海沿岸東北自動車道ともに過去10年間で全線事業化



▲ 広域道路ネットワークの整備状況 (平成30年度末見込み)

② ICアクセス道路の整備

- 高速道路等の開通に合わせ、追加ICやICへのアクセス道路を整備
 - ・ (主)米沢高畠線(米沢中央IC)、(主)寒河江村山線(東根北IC) など
- 高速道路等利用の利便性の向上のため、引き続き高速道路等の整備スケジュールに合わせてICへのアクセス道路の整備を促進する必要がある。

③ 「道の駅」の整備

- 山形らしい道の駅の整備・活用により「やまがた創生」を図るため、「やまがた道の駅ビジョン2020」を策定(H28.3月)
- 県内に4つの「道の駅」がオープン H21:17駅 ⇒ H30末:21駅
 - ・ 道の駅「あさひまち」(H27)
 - ・ 道の駅「しょうない」(H28)
 - ・ 道の駅「川のみなと長井」(H29)
 - ・ 道の駅「米沢」(H30)
- 特に、道の駅「米沢」は、重点「道の駅」に選定され、本県南側のゲートウェイとして新たな交流を生み出している。
- 東北各県と比較して「道の駅」の数が少ない状況であり、沿線市町村と連携して整備推進(特にゲートウェイ型)、機能強化を図る必要がある。

④ 道路施設の長寿命化

- 適切な修繕により長寿命化を図る「予防保全型」の維持管理に転換
 - ・ 管理する全2,429橋の診断を実施し、「山形県橋梁長寿命化修繕計画」を策定【目標達成】
 - ・ 計画に基づき、約1,200橋の長寿命化対策を実施
 - ・ 山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム(DBMY)を構築し、計画的・効率的な維持管理を実施
 - ・ 「合同診断会議」を開催し、市町村担当者の技術力向上、健全性診断の正確性向上、個人による診断のバラつきを抑制する取り組みを実施
 - ・ トンネル等の大規模構造物、舗装、その他道路施設についても状況を把握し、計画的な維持管理を実施
- 老朽化が著しい施設は、施設更新に着手
 - 引き続き効率的な維持管理を実施し、長期的なコストの低減、予算の平準化を図る必要がある。



▲ 橋梁点検実施状況



▲ 床板の抜け落ち ((主)大石田畑線 亀井田橋)

⑤ 人に優しい道路空間の整備

- 法指定通学路等の歩道整備
 - ・ 法指定通学路の歩道整備率が向上
H21:63% ⇒ H30末:78%(見込み)【目標達成】
(幅広路肩などの簡易な整備を含む)
- 無電柱化の取り組み
 - ・ 無電柱化整備延長 H21:46km ⇒ H30末:64km(見込み)
- 法指定通学路の歩道整備や交差点改良などの交通安全施設整備に加え、多様化するニーズに対応する必要がある。
 - ・ 超高齢社会の取り組みとして歩道のバリアフリー対策
 - ・ 訪日外国人に対応した標識や案内版の多言語表示
 - ・ 自転車の利活用推進 など

⑥ 防災対策の強化

- 緊急輸送道路の防災対策【目標概ね達成】
 - 要対策97箇所のうち概成 H21:51箇所 ⇒ H30末:93箇所(見込み)
- 緊急輸送道路の橋梁耐震化対策
 - 架替着手 H30末までに10橋【目標達成】
 - ・ 亀井田橋(大石田町)、栗谷沢橋(真室川町)、堀内橋(舟形町)、新内橋(酒田市)、出羽大橋(酒田市)、庄内橋(庄内町) など
- 孤立の可能性の高い地域の防災対策【目標未達成(66%)】
 - 要対策126箇所のうち概成 H21:40箇所 ⇒ H30末:83箇所(見込み)
- 災害発生時等の道路規制状況を県ホームページでリアルタイムで公表(位置情報、規制区間、理由、迂回路等)
- 緊急輸送道路等の老朽橋梁の架替等を優先的に進める必要がある。
- 多発する自然災害を受け、平成30年に緊急点検を実施しとりまとめた要対策箇所の防災対策を進める必要がある。

1 県内産業や観光の振興を支える社会基盤となるみちづくり

— 活力創造・広域交流促進 —

施策① 県土の基盤となる広域道路ネットワークの整備促進・機能強化と未事業化区間の早期着手

I 取組み方針

- i) 物流の円滑化、産業振興、観光振興、交流人口拡大等のストック効果の発現、さらには大規模災害に備えたりダンダンシー機能の確保の観点から、高速道路網の整備は必要不可欠であり、事業区間の早期供用及び計画区間の早期事業化を促進
- ii) 「重要物流道路」の整備促進及び国際海上コンテナ車の通行に対応した構造不適合箇所・脆弱箇所の機能強化の促進
- iii) 高速道路網の交通安全対策の促進

II 主な取組み内容 ★…2028年度末までに供用開始を見込む区間（県による推定）

i) 高速道路網の事業区間の早期供用及び計画区間の早期事業化

○ 高速自動車国道

《事業区間の整備促進・早期の供用開始》

① 東北中央自動車道

- 東根北IC～大石田村山IC L=約13.7km ★
- 新庄北IC～秋田県境 L=約20.5km ★
(供用開始された主寝坂道路は延長に含まない)

② 日本海沿岸東北自動車道

- 新潟県境～あつみ温泉IC L=約6.7km ★
- 酒田みなとIC～秋田県境 L=約19.9km ★

《基本計画区間の早期事業化》

① 東北横断自動車道酒田線（山形自動車道）

- 月山IC～湯殿山IC L=約21km

○ 地域高規格道路

《事業区間の整備促進・早期の供用開始》

① 新潟山形南部連絡道路

- 梨郷道路 L=約7.2km ★

② 新庄酒田道路

- 新庄古口道路 L=約6.0km ★
- 高屋道路 L=約3.4km ★

《調査区間・計画区間の早期事業化》

① 新潟山形南部連絡道路

- 小国道路
- 新潟県境～梨郷道路起点（小国道路を除く）

② 新庄酒田道路

- 戸沢村草薙～庄内町狩川間
- 戸沢村古口～草薙間（事業中の高屋道路を除く）
- 庄内町狩川～廻館間

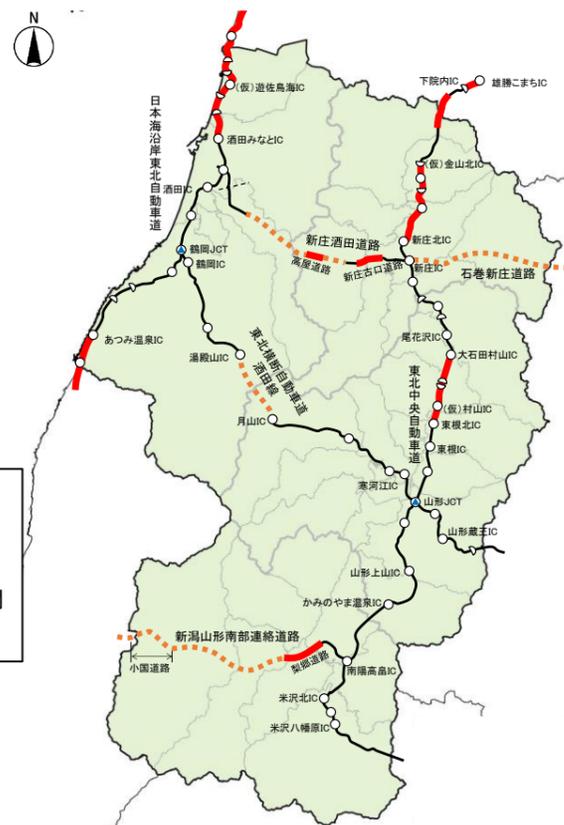
《候補路線の早期事業化》

① 国道47号（石巻新庄道路） 新庄IC～宮城県境

ii) 直轄国道等のその他の重要物流道路の整備促進、機能強化

iii) 高速道路等の交通安全対策の促進

- 対面2車線での暫定供用区間における車線逸脱防止の防護柵設置
- 誤侵入・逆走防止のための路面標示等



▲2028年度末の高速道路・地域高規格道路の整備状況（県による推定）



▲日本海沿岸東北自動車道 酒田みなとIC付近 <事業中>



▲一般国道113号 梨郷道路<事業中>

計画期間の代表指標（案）	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
高速道路の供用延長(供用率) ※分母約340km	259 km (76%)	320 km (94%)
地域高規格道路の供用延長(供用率) ※分母約100km	29 km (29%)	45 km (45%)

施策② 広域道路ネットワークを活かす追加IC(スマートIC含む)及びICや拠点へのアクセス道路の整備推進

I 取組み方針

- i) 県民及び来訪者の高速道路を利用しやすい環境整備を図るため、追加ICやスマートICの整備を促進
- ii) 産業・観光の振興のため、高速道路・地域高規格道路のICに接続するアクセス道路の整備を推進
- iii) 重要物流道路の基幹道路同士や物流拠点を結ぶアクセス路の整備推進

II 主な取組み内容

- i) 追加IC・スマートICの整備促進
 - 高速道路の供用開始に合わせた追加ICの整備促進 東北中央自動車道 村山北IC、大石田村山IC
 - スマートICの設置に向けた市町村の取組みを後押し 山形PASスマートIC(仮称) 等
- ii) ICや拠点へのアクセス道路等の整備推進
 - (主)山形天童線(天童市成生～東根市羽入)
 - (主)寒河江村山線(村山市河島、東根市松沢)
 - (国)287号(米沢北BP、米沢川西BP、川西BP)
 - (国)458号(本合海BP) など
- iii) 重要物流道路(アクセス道路)の整備推進



▲東北中央自動車道 東根北IC付近

計画期間の代表指標（案）	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
高速道路等のICへ30分でアクセスできる人口の割合	65%*	97%
高速道路等のICへ10分でアクセスできる工業団地数	35箇所*	65箇所
高速道路等のICへ30分でアクセスできる主要な観光地数	59箇所*	84箇所

*ミッシングリンク解消の効果を指標化するため、県境部分が繋がっていない庄内地方のICは現況値では対象としない。

施策③ 高速道路から県内各地へのゲートウェイとなる「道の駅」等への支援

I 取組み方針

- i) 圏域の様々な観光、地域情報を発信し、各圏域内の隅々に他県からの来訪者を導くゲートウェイとなる「道の駅」等の整備促進に向けた市町村の取組みを支援
- ii) 公共交通の交通結節点や大規模災害発生時の地域の防災拠点としての機能のほか、多様なニーズに対応した人が集い活気あふれる「道の駅」の機能強化を支援

II 主な取組み内容

- i) 高速道路の開通等に合わせ、沿線自治体において「道の駅」の新設や移転が検討されており、それらの取組みを支援
 - ゲートウェイ型「道の駅」の構想検討エリア 最上地域、庄内北部地域、庄内南部地域
 - その他の「道の駅」の構想検討市町村 山形市、村山市、東根市 など
- ii) 山形道の駅ビジョンに示す山形らしい魅力ある「やまがた道の駅」の整備・活性化を支援
 - やまがた道の駅緊急整備支援事業費補助金による支援（観光案内施設整備、トイレの改修等）
 - 「道の駅」連絡会の開催等による「道の駅」間の連携調整 など

計画期間の代表指標（案）	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
山形らしい魅力のある「やまがた道の駅」数	21 駅	30 駅
防災拠点機能を備えた「道の駅」数	4 駅	10 駅



2 災害を未然に防止し安全・安心に利用できるみちづくり

— 防災・安全・安心・保全・協働 —

施策④ 防災・減災に向けた県管理道路の機能強化と災害発生時における対応の迅速化

I 取組み方針

- i) 災害発生直後から、避難・救助や、物資供給等の応急活動のために緊急車両の通行を確保すべき「緊急輸送道路」や重要物流道路とともに指定される「代替路」や「補完路」(以下、緊急輸送道路等という)について、道路ネットワークの強化のため、橋梁の耐震化等を優先的に実施
- ii) 県管理道路の防災対策の推進
- iii) 豪雨災害等に強い道路ネットワークの整備促進
- iv) 災害発生時における迅速かつ正確な交通規制・迂回路等の情報提供、孤立解消に向けた応急復旧等の実施

II 主な取組み内容 (代表箇所)

- i) 緊急輸送道路等における橋梁の耐震化・老朽橋梁対策 等
 - 耐震化が必要な橋梁における補強・落橋防止装置の設置
 - (主)新庄次年子村山線 堀内橋 (舟形町) 橋齢62年 ※架替
 - (一)余目松山線 庄内橋 (庄内町～酒田市) 橋齢60年 ※架替※ 老朽化が著しい場合や工法検討の結果架替のほうが安価な場合などは橋梁の架替を実施
- ii) 県管理道路の防災対策の推進
 - 平成30年度に実施した重要インフラ緊急点検※結果に基づく緊急輸送道路等の要対策箇所における防災対策の優先整備 (落石防護柵、法面保護、雪崩予防柵、防雪柵、流雪溝等)
 - (主)米沢南陽白鷹線 (南陽市漆山) 落石防護柵
 - (主)大江西川線 (西川町大井沢) 雪崩予防柵
 - (主)新庄戸沢線 (新庄市金沢) 流雪溝
 - (一)藤島由良線 (鶴岡市戸野) 防雪柵 など※全国で相次ぐ大規模災害を受け、平成30年9月21日の関係閣僚会議において国民生活や社会経済活動を守るために機能を確保する必要がある重要インフラの緊急点検の実施が決定された。H30年11月末までに政府が点検結果と対応方策をとりまとめ、公表される予定
 - その他の県管理道路における防災対策、冬期間の交通安全対策



▲防災対策(例)

左:(主)上山七ヶ宿線 (上山市) 落石防護柵
右:(主)余目温海線 (鶴岡市) 法面保護工

▲冬期間の交通安全対策(例)

左:(国)344号 (真室川町) 雪崩予防柵
右:(一)大石田名木沢線 (大石田町) 流雪溝

- iii) 豪雨災害に強い道路ネットワークの整備
 - (主)大江西川線 (大江町貫見) ※道路改築

- iv) 災害発生時の情報提供、孤立解消等に向けた迅速な応急復旧
 - 県ホームページにおける通行規制情報、ライブカメラ映像の提供 など
 - 道路の寸断等の災害発生により集落の孤立や、広域的な迂回が発生した際には、早期の解消のため、緊急時における随意契約制度等を活用するなど、迅速な応急復旧工事(仮応急含む)を実施

計画期間の代表指標 (案)	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
緊急輸送道路等における橋梁耐震化率	94 %	100 %
重要インフラ緊急点検における県管理道路の要対策箇所の対策	—	概成

施策⑤ 人にやさしく安全・安心な道路整備に向けた多様な取組みの推進

I 取組み方針

- i) 「山形県通学路安全確保対策プログラム(平成25年3月策定)」に掲げるPDCAサイクルのもとで、学校関係者、警察、地域、道路管理者が連携して通学路の点検を行い、歩道設置等の交通安全対策を優先的に実施
- ii) 加速的に進行する高齢化を見据え、子どもだけではなく高齢者や障がい者にも優しい歩行空間を創出 (無電柱化による障害物除去、段差解消等)
- iii) 限られた予算内で広く効果を発現できるよう、多様な交通安全対策を実施 (側溝整備等による幅広路肩の整備、視認性確保のための路肩や交差点のカラーリング、植樹帯の除去による道路空間の再配分など)

II 主な取組み内容

- i) 歩道整備 (代表箇所)
 - (一)十日町山形線 (山形市飯田)
 - (主)上山蔵王公園線 (山形市蔵王温泉)
 - (主)寒河江村山線 (寒河江市中河原)
 - (一)樽石基点線 (村山市長善寺)
 - (主)舟形大蔵線 (舟形町舟形)
 - (一)大塚米沢線 (川西町荻) など
- ii) 交差点改良 (代表箇所)
 - (一)東根尾花沢線 (東根市神町南) など
- iii) その他の多様な交通安全対策
 - 交差点カラーリングによるドライバーからの歩行者の視認性向上
 - 側溝整備による幅広路肩、路肩カラーリングによる簡易な歩行空間確保
 - 街路樹の伐採による道路空間の再配分
 - 歩道への車両侵入防止対策
 - ETC2.0プローブデータ等を活用した効果的な交通安全対策
 - 地震発生時の倒壊の恐れのあるブロック塀の所有者に対する改善指導など



▲通学路の合同点検



▲歩道整備

(一)長岡中山線 (天童市高掬)



▲路肩カラーリングによる歩行空間確保

(一)万世窪田線 (米沢市川井)



▲幅広路肩による歩行空間の創出 (国)287号 (川西町上小松)



▲交差点カラーリングによる歩行者の視認性向上 (主)鶴岡羽黒線 (鶴岡市馬場町)

計画期間の代表指標 (案)	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
指定通学路※における歩行空間の整備率 ※分母約682km (2017年3月時点)	78 %	80 %
2017年度までの通学路点検における要対策箇所数	106 箇所	完了

施策⑥ 予防保全型維持管理等による計画的な道路施設の長寿命化と効率的な道路維持管理の推進

I 取組み方針

- i) 高度成長期に集中的に整備された橋梁の老朽化が今後急速に進むことから、長期的な維持管理コスト縮減、予算の平準化を推進
- ii) トンネル等大型構造物の道路施設について、健全性と第三者被害防止の観点から定期点検を実施し、効果的・効率的な維持管理を実施
- iii) 舗装、雪寒施設等その他の道路施設についても、調査・点検により状況を把握し、計画的な維持管理を実施
- iv) 限られた予算の中で維持管理水準を維持するため、道路監視、維持修繕業務委託との役割分担のもと、地域や企業、NPO等の力を活かした県民協働による効率的な維持管理を実施

II 主な取組み内容

- i) 橋梁長寿命化
 - 「山形県橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、予防保全的な補修など効率的な維持管理を推進
 - 山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム(DBMY)の活用
 - 技術力向上のための山形県道路橋合同診断会議の開催
 - 代表箇所 ④に記載する緊急輸送道路等の橋梁以外を記載
 - ・(主)山形山辺線 江俣跨線橋 (山形市) ※長寿命化対策
 - ・(主)山形山寺線 荒谷橋 (山形市) 橋齢90年 ※架替
 - ・(主)長井白鷹線 荒砥橋 (白鷹町) 橋齢61年 ※架替 など
- ii) トンネル等大型構造物の長寿命化
 - 「山形県道路トンネル長寿命化基本方針」に基づく効率的な維持管理
 - ・(国)348号 白鷹トンネル(白鷹町) 29年経過 照明・通信設備更新
 - 大型構造物の長寿命化
 - ・(国)347号 母袋2号スノーシェッド(尾花沢市) 32年経過 断面補修等
- iii) 舗装や雪寒施設等その他の道路施設の長寿命化
 - 「山形県道路舗装長寿命化修繕計画(H30年度改訂)」に基づき、路面性状調査により定量的に損傷状態を把握し、効果的な維持管理を推進
 - 防雪柵・雪崩予防柵等について、定期的なパトロールにより劣化状況を把握し、効果的な維持管理を推進
- iv) 県民協働による維持管理の実施
 - 道路維持管理
 - ・道路パトロール、維持作業及び応急工事等の実施による管理水準維持
 - 道路除雪
 - ・市町村との交換路線、協働除排雪等の実施による効率化・コスト縮減
 - マイロードサポート事業
 - ・県が管理する道路の美化清掃、歩道除雪等を積極的に行う自治会や企業等の団体に対し、活動費の助成や歩道除雪機の貸与等で支援
 - ・若い世代の参加を促し、団体の増加や団体の活動継続につながる広報活動等を展開

計画期間の代表指標 (案)	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
長寿命化修繕計画に基づく健全度が低い橋の対策率※	63 %	100 %
トンネル長寿命化基本方針に基づく健全度が低いトンネルの対策率※	—	100 %

※ 各年度の点検結果に基づく対策率として、診断後5年での対策率100%を毎年の目標に設定
トンネルの点検は、H28(2016)年度から実施したため、現況値なし

3 既存ストックを有効活用し快適な暮らしと地域の活力を生み出すみちづくり

— 地域活性化・快適・効率化 —

施策⑦ 生活圏間・都市間ネットワーク及び生活幹線道路の整備推進

I 取組み方針

- i) 生活圏間・都市間の交流連携、生活関連サービスの確保、地域社会の維持等のため、一般国道や主要な県道において道路の改築・拡幅やバイパスの整備を推進（ボトルネック箇所、線形不良等の道路構造上の問題から走行性に課題のある箇所等）
- ii) 限られた予算の中で事業箇所の選択と集中を図りながら、地域の実情に応じた効率的な整備を推進（中山間地域等で交通量の少ない道路におけるすれ違い困難な箇所の部分的な拡幅や待避所の設置、対向車の確認が困難な屈曲部の視距改良など）

II 主な取組み内容（代表箇所）

i) 道路改築・拡幅、バイパス整備

- (国)458号（中山町金沢）
- (国)287号（朝日町杉山～白鷹町大瀬）
- (主)大江西川線（大江町貫見）【再掲】
- (主)新庄戸沢線（新庄市升形）
- (主)長井飯豊線（飯豊町手ノ子）
- (主)鶴岡羽黒線（鶴岡市手向）
- (国)344号（酒田市安田）など

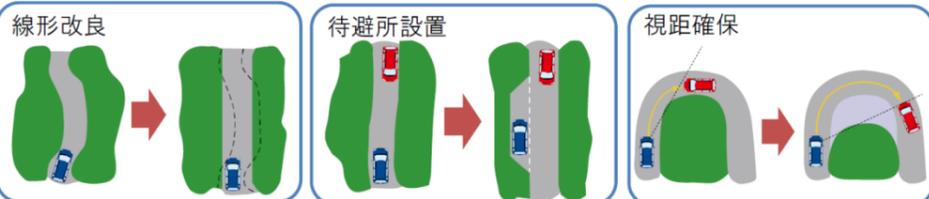


▲整備事例
(主)天童寒河江線(蔵増バイパス)

ii) 地域の実情に応じた改良

(部分的な拡幅、線形改良、視距確保、待避所設置等の1.5車線の整備)

- (主)大石田畑線（大石田町大浦）
- (主)真室川鮭川線（真室川町釜淵）
- (主)玉川沼沢線（小国町百子沢）など



▲1.5車線整備の事業メニュー



▲地域の実情に応じた道路改良の事例
(主)山形永野線（山形市土坂）の部分的な拡幅

施策⑧ 街なかに賑わいを創出するみちづくりの推進

I 取組み方針

- i) 都市部における円滑な交通の確保と、豊かな公共空間・景観を備えた良好な市街地の形成を図る街路事業の整備、市町村が策定する立地適正化計画に基づき、「コンパクト+ネットワーク※」の取組みを推進する事業を推進
- ii) 沿線住民やインバウンドを含む観光客に親しまれる良好な景観を創出するため、市街地における街路事業や、観光地における道路改築等を契機とした無電柱化を推進
- iii) バイパスの整備、市街地部の道路拡幅や交差点改良等の対策を実施した箇所については、最新データや地域の実際の交通状況を踏まえ主要渋滞箇所の見直しを実施

※人口減少、高齢化社会を見据え、今後も都市機能を維持していくため、郊外への都市的土地利用の拡大を防止すべく、医療、福祉、商業等の都市機能を集中させ、さらに、それらの施設を公共交通機関でネットワーク化し、高齢者でも安心して生活できる都市を目指した政策

II 主な取組み内容（代表箇所）

- i) 街路事業等（市街地における道路の拡幅、自歩道整備、無電柱化等）
 - (都)旅籠町八日町線（山形市本町、七日町）
一方通行解除、4車拡幅、自歩道、無電柱化
 - (都)東原村木沢線（山形市木の実町）無電柱化、4車拡幅、自歩道
 - (都)北本町飛田線（新庄市新町）自歩道、無電柱化
 - (都)赤湯停車場線（南陽市二色根）自歩道、無電柱化
 - (都)桐町成田線（長井市本町）自歩道、無電柱化
 - (都)道形黄金線（鶴岡市馬場町）自歩道、無電柱化
 - (都)豊里十里塚線（酒田市上本町～山居町）【再掲】
4車拡幅、自歩道、無電柱化
- (国)112号 霞城改良（山形市城北町～七日町）※直轄事業
4車拡幅、自歩道、無電柱化 など



▲(都)赤湯停車場線 南陽市市街地における賑わいの創出



▲(都)山形老野森線(天童市)歴史・文化・景観に配慮したみちづくり

ii) 主要観光地等で特に景観に配慮し、無電柱化に取り組む事業箇所

- (主)上山蔵王公園線（山形市蔵王温泉）
歩道整備（再掲） など

(主)上山蔵王公園線(山形市蔵王温泉)



iii) 渋滞解消対策の推進（街路事業、バイパス整備、交差点改良等）

計画期間の代表指標（案）	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
都市機能誘導区域・中心市街地活性化区域内の都市計画道路の整備率※	62%	73%
無電柱化の整備延長	64 km	75 km
市街地エリアにおける主要渋滞箇所数	66 箇所	51 箇所

※都市機能誘導区域、中心市街地活性化区域は2019年4月現在

施策⑨ 山形県の特徴を活かした道路ストック(施設)をかきこく使うみちづくりの推進

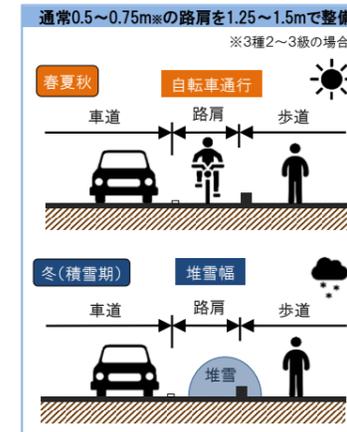
I 取組み方針

- i) 平成29年5月の自転車活用推進法の施行を踏まえ、自転車の利用環境を整備するため、自転車通行帯として利用できる冬季の堆雪幅を確保した“山形らしい”みちづくりを推進
- ii) 県内周遊の利便性向上、非幹線道路への大型観光バス等の進入の抑制のため、県外・国外からの来訪者にも分かりやすい道路標識の整備を推進
- iii) ETC2.0等のビッグデータを活用した即効性のある渋滞緩和・事故防止対策を推進【再掲】

II 主な取組み内容

i) 自転車の利用環境の整備

- 道路の拡幅や歩道整備等に合わせ、可能な限り積雪期以外は自転車の通行に利用できる堆雪幅を確保
- 既存の道路についても、ドライバーへの注意喚起のため通学路などで自転車の利用状況に応じて、路肩に矢羽根マーク等を標示
- インバウンド等によるサイクルツーリズムのニーズを把握し、県内の観光地を周遊できるようなサイクリングルートの路肩のカラーリング等の整備検討



▲山形らしい道路整備の例
(路肩の堆雪幅の有効活用)



▲路肩内に「自転車専用」の文字や矢羽根型の路面表示
山形市小姓町の市道



▲路肩幅のカラーリング、ポラードの設置による自転車専用通行帯の分離(国道112号 山形市本町)

ii) 分かりやすい道路標識の整備

- 交差点名標識の整備
- 既設標識の改善（ピクトグラム、高速道路ナンバリング、英語表記）
- 非幹線道路への大型車の侵入抑制



▲ピクトグラムの活用



▲英語表記の改善(Uesugi Jinja Shrineに修正)



▲高速道路ナンバリングの対応

計画期間の代表指標（案）	現況(見込み) (2018年度末)	目標 (2028年度末)
市町村の自転車ネットワーク計画に位置付けられた県管理道路における自転車利用環境整備率	—	計画策定後 目標設定 5